



藤井寺市の財政のようす

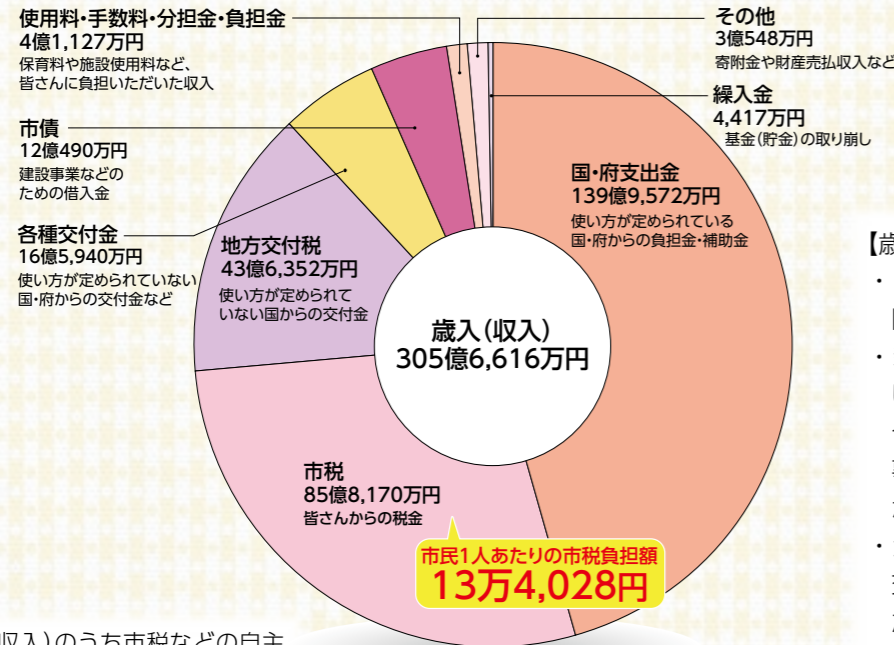
～令和2年度決算の報告～

皆さんからの税金がどのように使われたかなど、令和2年度の市の財政についてお知らせします。

問合せ 行財政管理課 財政担当(5階③番窓口) ☎939・1014

一般会計 (歳入)

決算額は、305億6,616万円で、前年度から65億6,146万円(27.3%)の増加となっています。



【歳入の特徴】

- ・市税が前年度と比べ約1億7千万円増加しました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として実施した特別定額給付金事業や子育て世帯への臨時特別給付金事業などの実施により国庫支出金が大きく増加しました。
- ・消費税率改定により、地方消費税交付金が約2億5千万円増加しました。
- ・財政調整基金(貯金)を取り崩していないため、繰入金が大きく減少しました。

歳入(収入)のうち市税などの自主財源は全体の約30%、地方交付税などの依存財源は約70%を占めており、地方交付税などに大きく依存した財政構造となっています。

決算報告 (一般会計)

令和2年度一般会計決算は財政調整基金(貯金)を取り崩すことなく、6,192万円の黒字となりました。

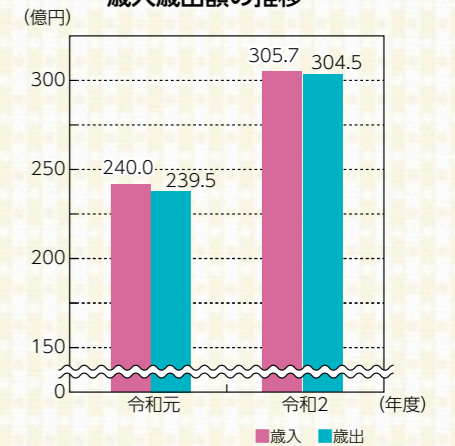
令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として実施した特別定額給付金事業(歳入歳出決算額約64億7千万円)などの実施により決算額が大きく増加しました。

	令和2年度 決算額	令和元年度 決算額	対前年度 増減額
歳入	305億6,616万円	240億470万円	65億6,146万円
歳出	304億4,667万円	239億5,024万円	64億9,643万円
形式収支※1	1億1,949万円	5,447万円	6,502万円
繰越財源※2	5,757万円	3,750万円	2,007万円
実質収支	6,192万円	1,697万円	4,495万円

※1 「歳入-歳出」の金額

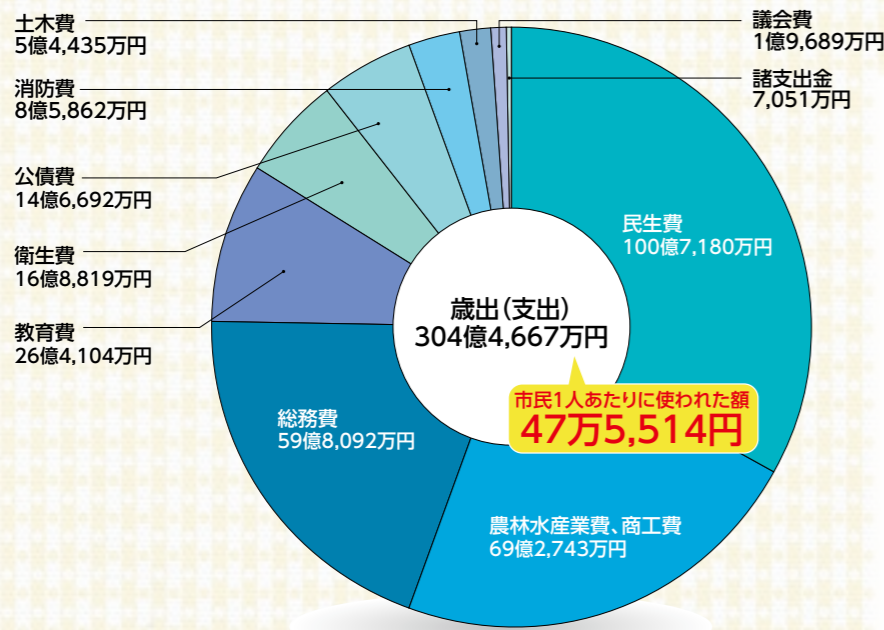
※2 予定していた事業を繰り越して翌年度に行うために確保しておく財源

歳入歳出額の推移



一般会計 (歳出)

決算額は、304億4,667万円で、前年度から64億9,643万円(27.1%)の増加となっています。



【歳出の特徴】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で例年実施している事業を中止、縮小したものも多数ありましたが、感染症対策として国や市独自の様々な経済対策・感染拡大防止対策事業を実施したため、歳出総額が大きく増加しました。
- ・普通建設事業費は、市立小中学校空調PFI事業の終了などにより、前年度と比べ大きく減少しました。
- ・社会保障関係経費(扶助費等)や公債費(市債の返済)が増加傾向にあるなか、今後も感染症対策への取り組みを進めていく必要があり、厳しい財政状況が続いています。

様々な行政課題に対応していくために、「藤井寺市行財政改革アクションプラン2020」(令和3年2月策定)に基づいて行財政改革に取り組み、健全な行財政運営の実現と時代に合った行政サービスの強化を目指していきます。

令和2年度に各分野で支出した金額を
市民1人あたりに換算すると…

1人あたり **47万5,514円**
使われました!

民生費 15万7,301円 生活保護、子育て支援、高齢者、障害者福祉など	農林水産業費 商工費 10万8,192円 農業や商工業の振興、特別定額給付金(1人10万円)など	総務費 9万3,410円 市役所運営、防犯や災害対策、租税に関するものなど	教育費 4万1,247円 幼稚園・小中学校教育、生涯学習、スポーツ振興など	衛生費 2万6,366円 健康推進や病気の予防、ごみ処理など
公債費 2万2,910円 市債(借入金)[元金・利子]の返済	消防費 1万3,410円 消防組合や消防団の活動など	土木費 8,502円 道路や公園の整備、交通安全対策など	議会費 3,075円 市議会の運営	諸支出金 1,101円 預金利子などの積立

※グラフ内の数字は、それぞれの項目で四捨五入しているため、集計が合わないところがあります。市民1人あたりとは、令和3年3月31日現在の人口(64,029人)で割った金額です。

新型コロナウイルス感染症対策として実施した主な事業

子どもの笑顔サポート給付金事業 2億452万円



経済的負担の大きい子育て世帯の不安を少しでも解消するため、0歳から18歳までの児童がいる世帯へ給付金を支給しました。

休業要請支援金 (府・市町村共同支援金)事業 7,675万円



経営継続を下支えすることを目的として、大阪府が行った「施設の使用制限の要請等」に協力し、特に深刻な影響を被っている府内の中小企業などに家賃などの固定費を支援するための支援金支給事業を大阪府と共同で行いました。

水道基本料金減免事業 4,145万円



市民の生活や経済活動を支援するため、水道の基本料金の減免を行いました。

市立図書館図書等充実事業 1,714万円



在宅時間を有意義に過ごせるよう、図書・CD・DVDなどの図書館資料を充実させました。

地域活性化商品券事業 1億8,155万円



売上げが激減している市内の店舗の利用を促進するため、全世帯(約29,600世帯)へ「店へ、帰ろう!」キャンペーン専用のパスポートと6,000円分の商品券を送付するとともにキャンペーンを通じて市内店舗のPRを行いました。

市立小中学校体育館空調整備事業 4,804万円



三密を避けるための分割授業として、大きな空間を持つ体育館を利用するために必要となる空調を購入しました。

避難所感染防止対策用品購入事業 4,075万円



避難所開設における新型コロナウイルス感染症対策のための資機材などを購入しました。

市税等の納付のための キャッシュレス決済事業 1,043万円



納付者の窓口などでの接触機会を減らすため、キャッシュレス決済を導入しました。

令和2年度に実施した主な事業

令和2年度は第五次総合計画後期基本計画の初年度にあたり、「住みたいまち」「訪れたいまち」「住み続けたいまち」の実現をめざし、これまで取り組んできた重点戦略「子ども・子育て安心プロジェクト」「まちなかにぎわいアッププロジェクト」「いきいき長寿プロジェクト」に関する様々な施策に取り組みました。

GIGA スクール構想事業 1億899万円



全ての児童生徒の「1人1台端末」などのICT環境を整備しました。

市立道明寺東小学校及び市立第三中学校 トイレ改修事業(1期) 1億7,562万円



古くて使いにくかったトイレを洋式化しました。明るくきれいで、使いやすくなりました。

市立幼稚園耐震補強・空調整備事業 5,489万円



市立藤井寺幼稚園及び市立道明寺南幼稚園の耐震補強工事並びに空調整備を行いました。

橋梁長寿命化事業 2,305万円



橋梁長寿命化修繕計画に基づき、定期点検、補修設計及び補修工事を実施しました。

土師ノ里駅前広場ミスト装置設置事業 1,071万円



大阪府の「都市緑化を活用した猛暑対策事業」を活用し、土師ノ里駅前広場にミスト装置を設置しました。

観光プロモーション推進事業 706万円



地元民がオススメする観光スポットを募集し、キャンペーンホームページ「観光難易度A級シティフジイデラ」を作成し、マイクロツーリズムを促進しました。

病後児保育事業 503万円



令和2年4月に開園したふじみ保育園において、病後児保育の事業委託を実施しました。

タウンミーティング事業 10万円



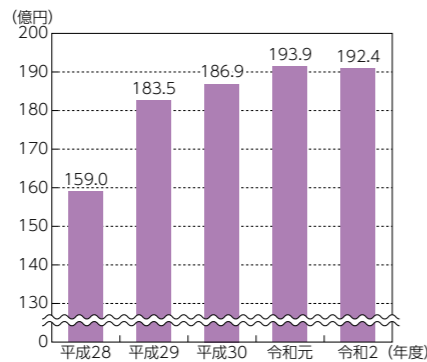
市民の声を広くお聴きし、より良い市政運営に生かすため、市長タウンミーティングを実施しました。

一般会計 財政状況

市債残高
基金残高
経常収支比率
市の財産

市債残高(借金)

市民1人あたり 30万 434円

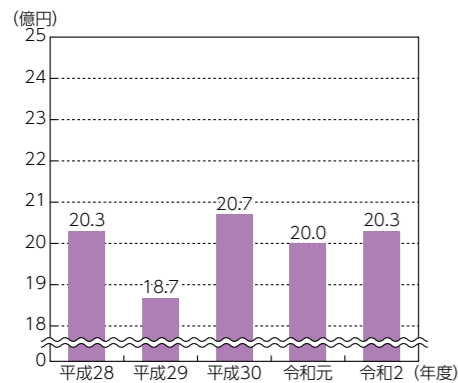


市債残高は前年度比で1億5,619万円減少して192億3,652万円となりました。これは、令和2年度に新しく借り入れた金額よりも返済した金額の方が多かったためです。

平成29年度以降に借り入れた市債の元金返済が始まることから、令和3年度以降の公債費の増加は確実となっています。今後の普通建設事業の実施は公債費の将来推計も踏まえ、慎重に検討する必要があります。

基金残高(貯金)

市民1人あたり 3万1,737円



基金名	残高
財政調整基金 ※5	15億 409万円
減債基金 ※6	1億7,185万円
公共施設整備基金	2億3,026万円
福祉基金	732万円
国際交流基金	293万円
古代史料整備基金	2,584万円
職員退職手当基金	14万円
市民病院施設整備基金	3,725万円
ふるさとまちづくり応援基金	4,742万円
森林環境譲与税基金	499万円
合計	20億3,209万円

(令和3年5月末現在)

基金は条例に基づいて設置され、特定の目的のために活用することができます。

基金残高は前年度比で3,634万円増加し、20億3,209万円となっています。

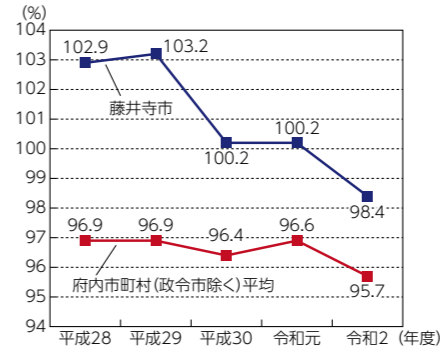
それぞれの項目で四捨五入しているため、集計が合わないところがあります。
※5 災害復旧や収支不足が生じたときに積み立てている基金 ※6 市債の償還のために積み立てている基金

市民1人あたりとは、令和3年3月31日現在の人口(64,029人)で割った金額。

経常収支比率

令和2年度の経常収支比率は前年度から1.8ポイント改善し、98.4%となりました。これは新型コロナウイルス感染症の影響で、例年実施している事業を中止または縮小したことにより、経常的な支出が減少したことなどが要因です。しかしながら、本市の財政基盤が脆弱な状況にあることには変わりなく、厳しい財政状況が続いています。

通常毎年入ってくると思われる収入で、通常毎年出ていくと思われる支出をどの程度賄っているかを表す指標



市の財産

(単位:㎡)

区分	土地	建物
公用財産 ※3	22,265	19,501
公共用財産など ※4	517,587	107,615
その他	2,220	80
合計	542,072	127,196

(令和3年3月末現在)

※3 庁舎など市の事務または事業を行うため市が直接使用する財産
※4 市民総合会館、図書館など一般的に市民の皆さんが利用する財産

財政健全化の指標

すべての比率において 基準内

令和2年度決算に基づく各比率(指標)は、前年度と同様にいずれも国の基準(早期健全化基準)を下回っています(令和2年度決算の実質収支が黒字のため、実質赤字比率及び連結実質赤字比率は「-」と表示しております)。

しかし、市債残高の増加傾向に伴い、「実質公債費比率」「将来負担比率」は今後上昇することが見込まれ、「早期健全化団体」「財政再生団体」に陥らないよう、財政健全化の取り組みを引き続き進めていきます。

指標名/基準となる数値・説明	藤井寺市の値	
	令和2年度	令和元年度
実質赤字比率 ■12.84%、■20.0% 一般会計等の実質的な赤字額が標準的な収入に対してどれくらいの割合かを示す指標	-	-
連結実質赤字比率 ■17.84%、■30.0% 一般会計等に特別会計・企業会計を合わせた市全体の实質的な赤字額が標準的な収入に対してどれくらいの割合かを示す指標	-	-
実質公債費比率 ■25.0%、■35.0% 一般会計等の実質的な借入金の返済額が標準的な収入に対してどれくらいの割合かを示す指標	1.3%	1.5%
将来負担比率 ■350.0%、■- 一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の残高が標準的な収入に対してどれくらいの割合かを示す指標	71.9%	75.8%
資金不足比率 ■20.0%(※) 公営企業の資金不足額が事業の規模に対してどのくらいの割合になるのかを示す指標	-	-

■早期健全化基準(イエローカード)、(※)は経営健全化基準(イエローカード)、
■財政再生基準(レッドカード)、いずれも令和2年度の国の基準

ふるさとまちづくり応援寄附金の使い道

藤井寺市を応援して下さる皆さんからたくさんのご寄附をいただき、ありがとうございました。寄附をされた皆さんには、寄附の使い道を8つの事業から選択していただいています。令和元年度に寄せられた寄附金4,111万円(5,177件)は、令和2年度に下記のとおり使わせていただきました。

①子育て支援又は教育の推進に関する事業

2,158件 1,673万円



- ・保育所、こども園、幼稚園、小学校、中学校の備品購入 1,025万円
- ・図書購入 164万円
- ・小学校デジタル教科書購入 484万円

②福祉又は医療の充実に関する事業

432件 340万円



- ・ふれあい支援事業 338万円
- ・環境美化推進事業 他 2万円

③観光又は産業の振興に関する事業

194件 156万円



- ・シティプロモーション推進事業 156万円

④スポーツの振興又は青少年の健全育成に関する事業

116件 93万円



- ・青少年育成推進事業 20万円
- ・市民総合体育館管理事業 73万円

⑤歴史的又は文化的な遺産の保全に関する事業

330件 322万円



- ・文化財用地管理事業 322万円

⑥都市基盤の充実又は安全なまちづくりに関する事業

122件 98万円



- ・道路環境整備 98万円

⑦まちの魅力をPRする事業

81件 58万円



- ・ふるさとまちづくり応援寄附金事業 58万円

⑧①から⑦以外で、市長が必要と認める事業

1,744件 1,371万円



- ・図書館資料充実事業700万円
- ・市営火葬場管理事業572万円
- ・公園施設管理事業 95万円
- ・職員研修事業 3万円
- ・市民協働推進事業 1万円

新型コロナウイルス感染症対策応援寄附金プロジェクト

ガバメントクラウドファンディング(GCF)制度などを利用して、マスクなどの衛生用品を調達しました。

141件 384万円



- ・衛生用品供給事業 334万円
- ・市立保健センター備品購入事業 50万円



駐車場特別会計

令和2年度藤井寺駅南駐輪・駐車場にかかる経費です。新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少しましたが、令和元年度決算に引き続き、1,055万円の黒字(前年度繰越金 1,660 万円含む)となりました。今後も、安心して利用していただけるように努めてまいります。

歳入		歳出	
使用料及び手数料	2,604 万円	駐車場費(駐車場の運営にかかる経費)	2,675万円
前年度繰越金	1,660 万円	その他	537 万円
その他	3 万円	合計	3,212万円
合計	4,267 万円	合計	3,212万円
歳入-歳出		1,055万円	

問合せ先 まち保全課駐車場・自転車等担当(4階④番窓口) ☎939・1206

令和2年度 企業会計決算

病院事業

令和2年度の入院患者は19,045人、1日当たり患者数は52.2人、病床利用率は53.2%でした。

また、外来患者数は44,011人で、1日当たり患者数は150.2人でした。

今年度は、企業債及び補助金を利用して、新型コロナウイルス感染症に対応するための医療機器の購入等を行い、充実を図りました。

収益的収支 ※1	
収入	23億 5,197万円
支出	23億 2,851万円
資本的収支 ※2	
収入	3億 2,930万円
支出	1億 7,284万円

問合せ先 藤井寺市民病院事務局庶務担当 ☎939・7031

水道事業

令和2年度は令和元年度と比較して、給水人口は319人減少の64,955人、給水戸数は45戸増加の26,265戸、年間総有収水量は66,917㎥増加の6,811,240㎥でした。

水道施設整備事業では、平成28年度から令和2年度までの継続事業として進めて参りました、道明寺浄水場の更新工事が完了いたしました。また、配水管整備事業では配水管の耐震化に取り組みました。

収益的収支 ※1	
収入	14億 1,843万円
支出	12億 763万円
資本的収支 ※2	
収入	4億 1,926万円
支出	10億 9,424万円

問合せ先 藤井寺水道センター総務課 ☎939・1302

公共下水道事業

令和2年度は令和元年度と比較して、下水道普及率は1.2%増加の82.8%、年間有収水量は133,544㎥増加の4,876,764㎥でした。建設改良事業では、下水道の新規整備や、下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水ポンプ場の改築更新を行いました。今後も引き続き未普及地域の解消と、雨水ポンプ場の改築更新に取り組んでいきます。

収益的収支 ※1	
収入	21億 438万円
支出	20億 3,426万円
資本的収支 ※2	
収入	19億 8,929万円
支出	25億 4,732万円

問合せ先 下水道総務課業務担当(2階⑥番窓口) ☎939・1265

▲※1：収益的収支…通常の経営活動に伴う収支で、サービス提供に対する料金などの収入と、施設を維持管理する費用や人件費、借入金の支払利息などの支出 ※2：資本的収支…施設や設備の整備などに伴う収支で、国からの借入金や負担金などの収入と、工事費や機器などの購入費、借入金の元金償還金などの支出

※それぞれの項目で四捨五入しているため、集計が合わないところがあります。

令和2年度 特別会計決算

国民健康保険特別会計

国民健康保険料や府からの交付金などを主な財源として、医療給付や保健事業などを行っています。

令和2年度決算は、歳入74億2,206万円、歳出68億2,643万円で、5億9,563万円の黒字になりました。なお、黒字分には前年度からの繰越金4億6,666万円が含まれています。

令和2年度末の被保険者数は14,150人で、前年度と比較して347人(2.4%)減少しました。保険給付費は45億1,499万円で、被保険者数の減少や新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う受診控えなどにより前年度と比較して4億445万円(8.2%)減少しました。

歳入		歳出	
府支出金	46億8,405万円	保険給付費	45億 1,499万円
国庫支出金	4,392万円	国保事業費納付金	20億 8,733万円
国民健康保険料	14億 1,047万円	総務費	1億 4,835万円
繰入金(市の負担金)	7億9,537万円	保健事業費	5,492万円
繰越金	4億6,666万円	その他支出	2,083万円
その他収入	2,158万円	合計	68億2,643万円
合計	74億2,206万円	合計	68億2,643万円
歳入-歳出		5億9,563万円	

問合せ先 保険年金課国民健康保険担当(1階②番窓口) ☎939・1177

後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療制度は、運営主体である大阪府後期高齢者医療広域連合と市で事務分担をしています。市では後期高齢者医療保険料や市の負担金を主

な財源とし、各種申請や届出の受け付け、保険料の徴収などを行っています。黒字収支となっていますが、これは令和3年度に広域連合へ納付する保険料などで、令和2年度末被保険者は9,341人で、前年度と比較すると0.4%増加しています。

歳入		歳出	
後期高齢者医療保険料(加入者の保険料)	8億 4,845万円	後期高齢者医療広域連合納付金(保険料等納付金・保険基金安定負担金)	9億 9,862万円
繰入金(市の負担金)	1億 9,291万円	総務費	999万円
繰越金	694万円	保健事業費	885万円
その他	922万円	諸支出金	396万円
合計	10億5,752万円	合計	10億 2,142万円

歳入-歳出 3,610万円

問合せ先 保険年金課福祉医療担当(1階②番窓口) ☎939・1186

介護保険特別会計

市内の令和2年度末の65歳以上の高齢者は18,273人で、人口に占める割合は28.5%となり、前年度と比較して0.1ポイント上昇しています。

介護サービスの提供にかかる費用のうち、市が支払った費用である保険給付費は、高齢者数の増加にともなって増えており、令和2年度決算額では54億4,190万となりました。前年度と比較すると、9,920万円(1.9%)増加しています。

歳入		歳出	
国庫・府支出金	22億9,898万円	保険給付費(介護サービスにかかる費用)	54億 4,190万円
支払基金交付金(40~64歳の方の保険料負担分)	15億 3,571万円	地域支援事業費	3億2,376万円
介護保険料(65歳以上の方の保険料)	12億 3,807万円	総務費	1億 6,590万円
繰入金(市の負担金)	9億 8,089万円	基金積立金	5,167万円
繰越金	7,617万円	諸支出金	3,552万円
その他	587万円	合計	60億 1,875万円
合計	61億 3,569万円	合計	60億 1,875万円
歳入-歳出		1億 1,694万円	

問合せ先 高齢介護課総務担当(1階③番窓口) ☎939・1164

※それぞれの項目で四捨五入しているため、集計が合わないところがあります。